

住まいの「地産地消」をめざす 地域密着型の家づくり

千葉県野田市に本社を構える「楸とんぐりの家イニシア (楸グッドリビング)」では、2004年から自然素材住宅に本格的に取り組んできた。さらなる自然素材住宅の普及のために開発した、コストパフォーマンスの高いコンセプト住宅「想のEシリーズ」のモデルハウスを訪ねた。

写真・川辺明伸 文・上野裕子



家中を見渡せる位置に設けたキッチンの特等席。吹き抜けを介して、2階の家族とも会話ができる。

自然素材の家を より多くの人に

住宅街の青い空に映える、板張りの壁と切妻屋根。ナチュラルな印象の外観が特徴的な「想souシリーズ」のモデルハウスがオープンしたのは、今年の1月。「これまでも自然素材の家づくりに力を入れてきましたが、コストの面から、どうしても限られた範囲での普及にとどまっていた」と話すのは、同社の社長・川村一雄さん。

そこで「極力リーズナブルに、素材現しの家をつくる」ことをめざして、「想souシリーズ」を生み出したのだという。「モジュールを見直し、規格を統一して総2階のプランとすることで、工期短縮を実現しました。坪単価は約60万円で、住まい手としては小さなお子さんのいる3代のご夫婦を想定しています。この『想souシリーズ』によって、より多くの方に本物の木の家での暮らしを叶えていただければと思っています」(川村社長)。

間取りは、1階にLDKと水まわり、2階に個室を配するというシンプルなもの。ペレットストーブのあ

る土間玄関を入ると広々としたLDKが広がる1階には、吹き抜けと南西のデッキに面した大きな開口部が設けられ、開放感にあふれる。「1階は、家族の団らんのための広々とした空間としました。オープンキッチンからは、リビング・ダイニングはもちろんのこと、吹き抜けを介して2階にいるお子さんの気配も感じられるようになっていきます」。



左：妻側と平側の外壁のコントラストが印象的な外観。

どんぐりの家イニシアの家は、すべて構造専門家による構造計算を行っている。梁を現しにすることにこだわり、同じ太さの梁を等間隔にわたしている。



吹き抜けから1階のLDKを見る。階段は、家族に挨拶をしてから個室へ向かうリビング階段を採用した。



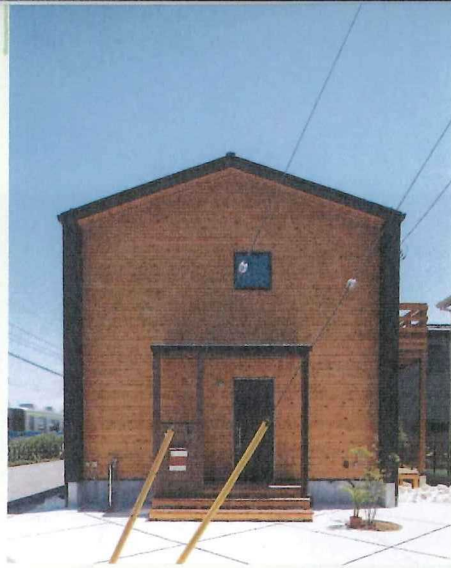
キッチンの背面にはスタディコーナーを設置。キッチンから食品庫から洗面・脱衣室にアクセスできる動線は、家事効率もよい。



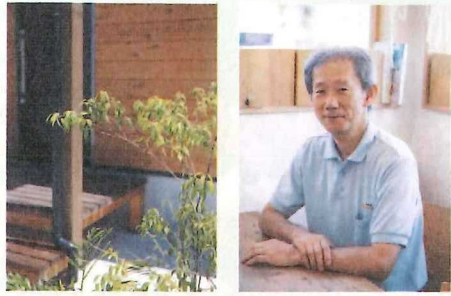
上：無垢材の手触りを楽しめるオリジナルのドアノブ。下左：左官仕上げの壁が豊かな表情を見せる。下右：土間に設置したベレットストーブ。



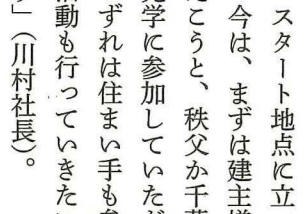
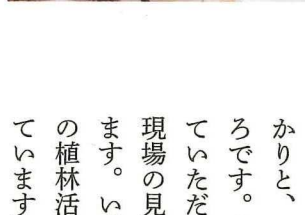
吹き抜けが開放的なリビング・ダイニング。断熱材はデコスを使用しており、壁体内通気工法と合わせて、エアコン1台で家中が快適に。



上：シンプルなフォルムが、木の素材感を引き立てる。下右：川村一雄社長。



上：広いウォークインクローゼットを備えた主寝室。右2点：トイレや階段にも、自然素材をふんだんに使っている。左2点：1階の回遊できる動線は、スムーズに家事ができると好評。



「木を現しにする」ことにこだわる同社では、素材に関してもよりよいもの・地域のを求め続けている。「まずは国産材での家づくりというところから取り組みがはじまったというところもあり、『想 soif シリーズ』では宮崎県の鉄肥杉を使っています。こちらはコンセプト住宅ということで、産地との間でモジュールも決めています。そして、現在はフリープランの『駿 shu シリーズ』で、埼玉県秩父や地元・千葉産の杉や檜を使うことに取り組みつつあります。こうした取り組みの背景には、『チルチンびと』『地域主義工務店』の会への加盟があったそうだ。「他の地域工務店さんの真摯な取り組みを知る中で、当社でもできるかぎり地場ものを使おうという意識が強くなったのです」と話す川村社長。地元・千葉産の材の産地は、君津や鴨川、安房などの南部になる予定。「正直に言うと、昔は千葉産の木材の存在すら知りませんでした。それでも、素材にこだわる家づくりをするうちに、県の森林組合を紹介していただきました」。

現在は、安定供給に向けて、県の森林組合、燻煙乾燥を行うバイオマス協同組合、プレカットの会社とどんぐりの家イニシアの4社で協定を結んだところだ。4社で協力することで、総武線、千代田線、常磐線沿線といった千葉県の都市部での普及をめざす。「県産材での家づくりは、まだまだと1棟の建設が決まったばかりと、スタート地点に立ったところです。今は、まずは建主様に知っていただくこと、秩父か千葉の伐採現場の見学に参加していただいています。いずれは住まい手も参加しての植林活動も行っていきたいと思っています」(川村社長)。

- DATA**
- 所在地……千葉県野田市山崎2131-2
 - 敷地面積……151.73㎡
 - 延床面積……109.71㎡ (1階57.96㎡ 2階51.75㎡)
 - 竣工……2014年1月 (工期2013年9月～2014年1月)
 - 設計……佐野建築設計室 (☎04-7343-0118)
 - 施工……(株)どんぐりの家イニシア (株)グッドリビング (☎0120-234-934)
 - 構造形式……木造軸組金物工法 2階建て
 - 主な外部仕上げ
 - 屋根/ガルバリウム鋼板横葺き
 - 外壁/ガルバリウム鋼板、杉板張り
 - 主な内部仕上げ
 - 天井/構造現し一部珪藻土塗り壁仕上げ
 - 壁/珪藻土塗り壁仕上げ
 - 床/アカマツ無垢板貼り
 - 断熱材/セルロースファイバー



どんぐりの家イニシアが開発した分譲地に建つダイニングカフェ「Hamilton R」。店舗の設計施工もどんぐりの家イニシアが手がけた。有田焼の食器でサービスされる食事と落ち着いた空間は、家族や友人とゆったり過ごすのにピッタリ。

Hamilton R / 〒278-0027 千葉県野田市みずき1-16-2 ☎04-7170-0273
 11時～21時 <http://hamiltonr.jp/>



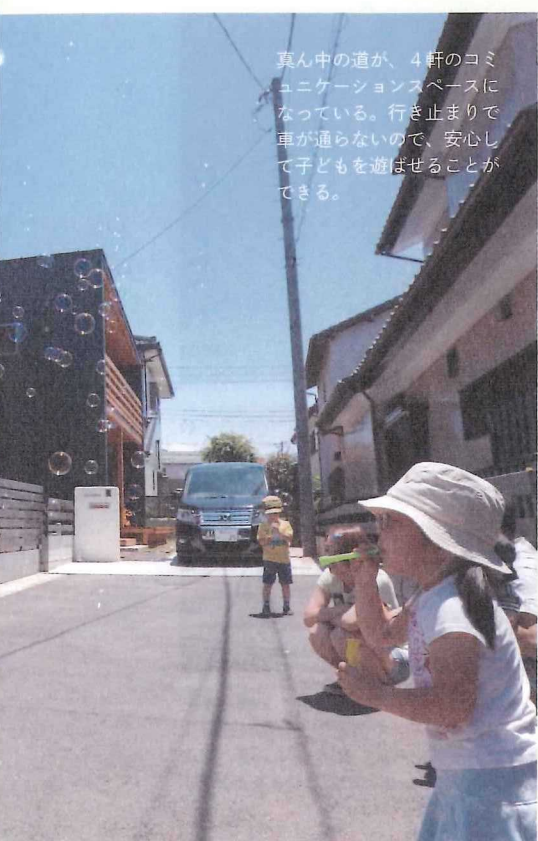
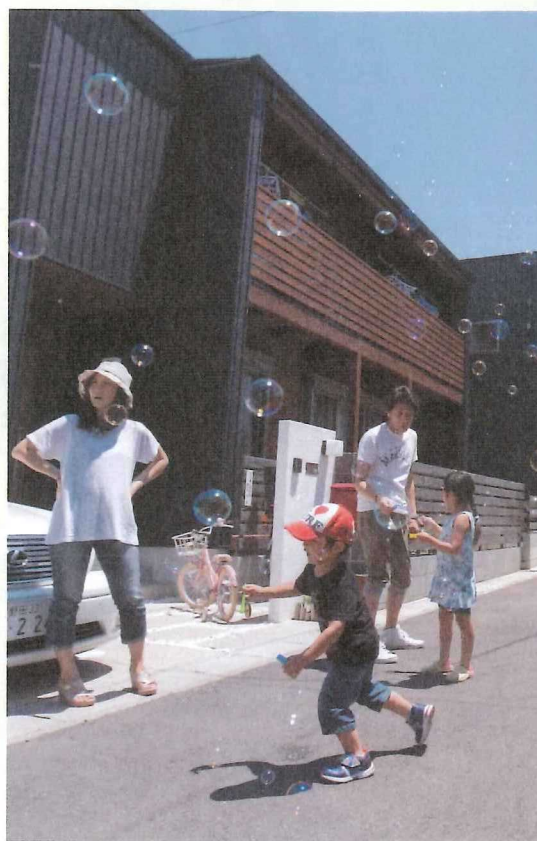
2階は天井を張らず、屋根のかたちがそのままわかるつくり。

今後めざすのは 県産材での家づくり

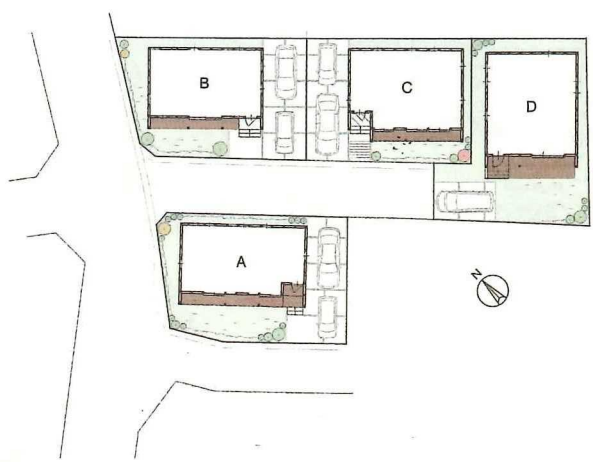
「木を現しにする」ことにこだわる同社では、素材に関してもよりよいもの・地域のを求め続けている。「まずは国産材での家づくりというところから取り組みがはじまったというところもあり、『想 soif シリーズ』では宮崎県の鉄肥杉を使っています。こちらはコンセプト住宅ということで、産地との間でモジュールも決めています。そして、現在はフリープランの『駿 shu シリーズ』で、埼玉県秩父や地元・千葉産の杉や檜を使うことに取り組みつつあります。こうした取り組みの背景には、『チルチンびと』『地域主義工務店』の会への加盟があったそうだ。「他の地域工務店さんの真摯な取り組みを知る中で、当社でもできるかぎり地場ものを使おうという意識が強くなったのです」と話す川村社長。地元・千葉産の材の産地は、君津や鴨川、安房などの南部になる予定。「正直に言うと、昔は千葉産の木材の存在すら知りませんでした。それでも、素材にこだわる家づくりをするうちに、県の森林組合を紹介していただ



2階は、子どもの成長など家族の状況によってフレキシブルに変えられる間取りになっている。



竣工1周年を記念して、どんぐりの家イニシアの主催でバーベキューが行われた。当日はあいにくの雨模様だったが、子どもたちはもちろん、ふだんは顔を合わせる機会の少ないお父さんたちも交流して盛り上がった。晴れの日には家族以外の車が通らない道路を目一杯使って遊ぶ。



ヨンがとりやすいのかもしれない。こちら以外でも、当社で分譲させていただいた分譲地で、お客様同士のコミュニケーションが活発なところが多くあります」（川村社長）。住まいの4家族も「どの家も同じくらしい年の子どもがいるので、気軽に付き合える」と、この環境を満喫している様子だった。

「いいね」という言葉をいただきました。この4軒の家を建ててから、外観に木を使ってみようと思われお客様が増えつつあるのが嬉しいですね。現在、年間で40棟ほど建てています。が、今後はいたずらに棟数を増やすのではなく、自分たちが自信をもっておすすめてくれるものをつくってきたいと思っています。まだまだスタート地点に立ったばかりですが、これからも自分たちが目と耳と手で確かめたよい素材で家づくりをしていければと考えています」（川村社長）。

真ん中の道が、4軒のコミュニケーションスペースになっている。行き止まりで車が通らないので、安心して子どもを遊ばせることができる。

子どもたちが集合してのシャボン玉大会。さまざまな年齢の子どもたちがふれあえるのはご近所ならではの。

（株）どんぐりの家イニシアが手がける分譲住宅

街並みをつくり、コミュニティをつくる

野田市を中心に、分譲地の開発も手がけている。昨年夏に完成した4軒の分譲地では、初めての試みとして、外観デザインを揃え、統一感のある街並みをプロデュースした。

どんぐりの家イニシアでは、10年ほど前から、「家は建てたいが土地はない」という建主向けに、土地を仕入れ、道路をつくって区分けし、そこに注文住宅を建設してきた。今回取付したのは、そうした分譲地の中で、初めてコンセプトを決め、建物のデザインを統一した4軒の分譲住宅だ。

「コンセプトとしては、環境にやさしい家づくり。太陽光発電パネル搭載可能な屋根、袖壁と深い軒によるパッシブソーラシステムを取り入れ、さらに外観はガルバリウムと木の組み合わせとしました」。

L字型の敷地に、3軒の家と1軒の家で挟むように道路があり、この道路が子どもたちの遊び場になり、バーベキューの場になったりと、4軒の家族のコミュニケーションの場となっている。取材時も、子どもたちが道で仲よく遊んでいた。「4軒しか面していない道路で、しかも行き止まりなので、コミュニケーション

